

『沼田城跡調査成果報告会』
於利根沼田文化会館大ホール
2026.02.15；橋口定志

史跡を守る・育てる

－沼田城を未来に伝えるために－

はじめに

2016(平成28)年の大河ドラマ『真田丸』は、上毛における真田氏関係城郭の歴史に大きな関心が寄せられるきっかけになり、歴史的な役割を果たすこととなった。沼田城・名胡桃城・岩櫃城などで、真田の城として保存・整備・活用しようとする事業に、活発に取り組みられるようになったのである。

しかし一方では、「遺跡」としての範囲が広範囲に及ぶため、中・近世城郭跡を保存・整備・活用する時の困難さもまた明らかになってきている。

そこで各地で惹起してきた問題を念頭に、沼田城の未来について考える糸口を探ってみたい。

I. 失われた遺跡・残された遺跡

- 高輪築堤遺跡
- 長屋王邸宅跡
- 月の輪古墳
- 加曾利貝塚

II. 城郭と城下町－史跡整備をめぐる視点－

(1) 市民の財産としての史跡（沼田城）

- ⇨ 普段から市民が訪れる史跡としての整備＝市民の憩いの場として親しまれる存在。
 - 乾櫓と御殿桜の扱い。
 - ・公園的施設の設置
 - 遊歩道・花壇・ベンチ・便所
 - ・障害者への配慮（バリアフリー）——車椅子等の通れる通路の確保。
 - 本来、城郭は侵入者の動きを規制するために動きにくくする施設。
 - ⇨ 市民に知って貰うための取り組み。
 - ・調査の学術的な成果を知って貰う→『沼田城跡－調査・保存整備事業の成果－1～3』
 - ・事業の概要を解りやすく紹介する→「沼田城かわら版」の全戸配布
 - ・日常的に市民に情報を提供する →「公報ぬまた－NUMATA－」への連載(2025.10～2026.2)
 - ・実際に見て貰う・触れて貰う →現地見学会。資料館企画展「重なる沼田城」(2025.10～12)
 - ・近隣地域の住民への情報の提供 →上毛新聞の取材への協力

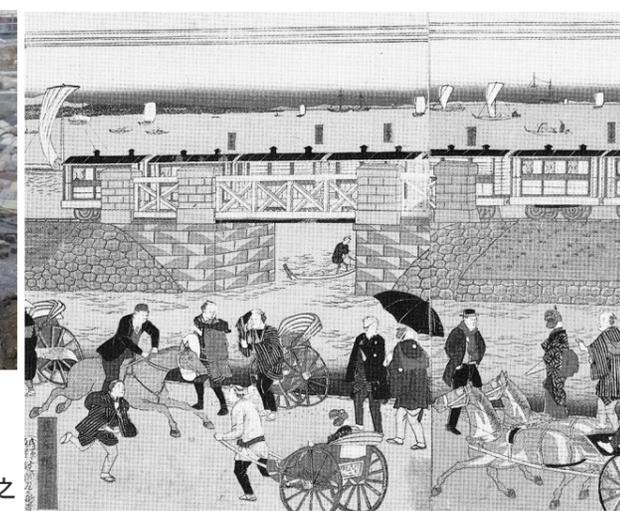
(2) “まちづくり”の核としての「沼田城」の史跡指定

- ⇨ 今日的課題として、城郭の保存・整備事業をどのように位置付け「活用」するのか。
 - ・城郭の周辺に広がる町に視野を広げた調査・保護・研究（城下町への視点）。
 - 景観の保全・歴史的環境を意図したまちづくり。
 - ⇨ 沼田城の個性を活かした復元事業（歴史的事実を踏まえた事業）。



高輪築堤発掘現場

三代広重「東京品川海辺蒸気車鉄道之真景」明治5～6年
国会図書館蔵



III. いま最も課題としなければならないのは何か

(1) 行政的課題

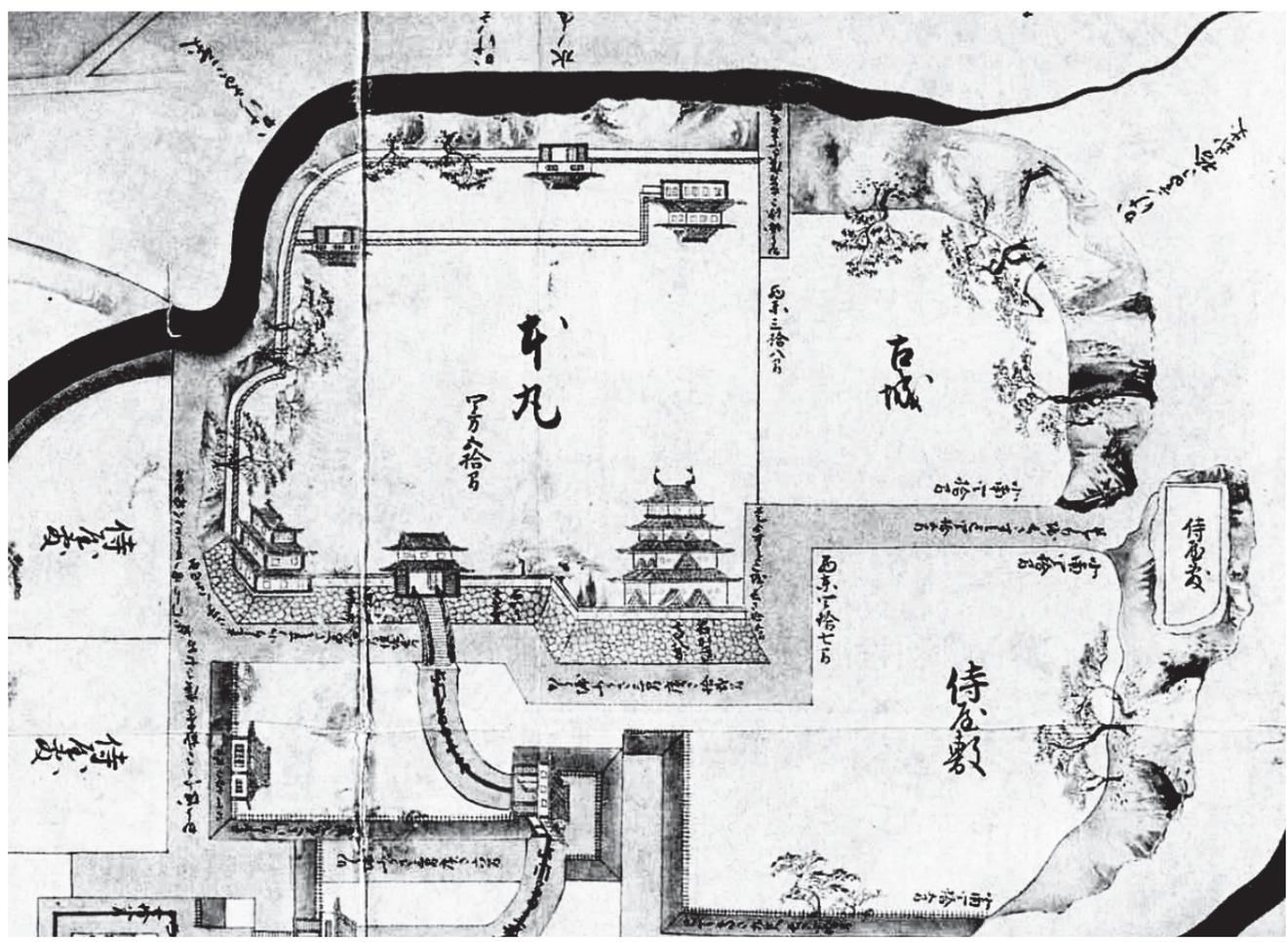
- 城郭の中核部は国の施設をはじめとする公共機関が集中する傾向。⇒沼田女子校敷地
 - 公共財産の売却を引き金とする保存問題。
 - 民間に売却するのではなく、地方自治体を受け皿として市民の手に取り戻す必要。
 - 城下町を含めた“地域”認識の上にたって、地域の歴史を明らかにしていく努力。
 - 正確な歴史認識の上に立った地域アイデンティティの形成。
- 史跡整備の方向性 ⇒ 独自の方向性を探る。（金太郎館の整備→すぐに飽きられる）
 - 「上州真田三城」を結ぶ真田街道の視点。
 - それぞれの今日的な状態を踏まえた連携事業の提案。（三者三様の姿を見せている）
 - 沼田城** 中世後期から近世まで続く、市街地に残されている城。整備はこれから。
 - 名胡桃城** 中世後期の城。殆どの部分は調査がおわり、整備もされている。
 - 岩櫃城** 中世後期の城。整備の為の調査はおわり、これから整備事業を進める。
 - 連携して、それぞれの魅力を提供する。この連携が下地となって、文化財としての価値を高められないか。**新しい価値を創造し育てる。**
 - ／新しい研究の蓄積－諸田義行「倉内城について－真田氏以前の沼田城」群馬文化 356号

(2) わたしの城下町

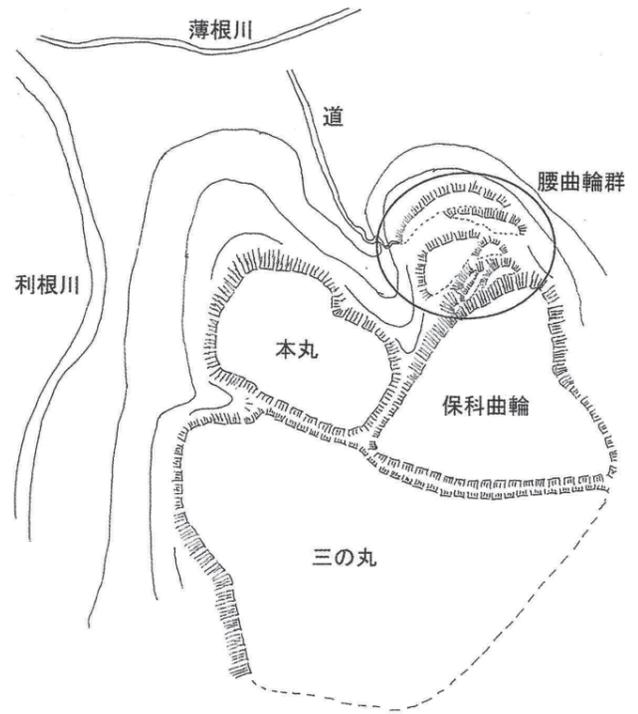
- 観光開発に眼目をおいてきた従来の城郭整備事業。← 逆転の発想を…
- 城下町が、その都市の出発点になる例が多い。
- 市民の“場”として甦らせるには…
 - 自らが希望する「環境」としての城郭整備。

(3) 整備事業を進める上での留意点

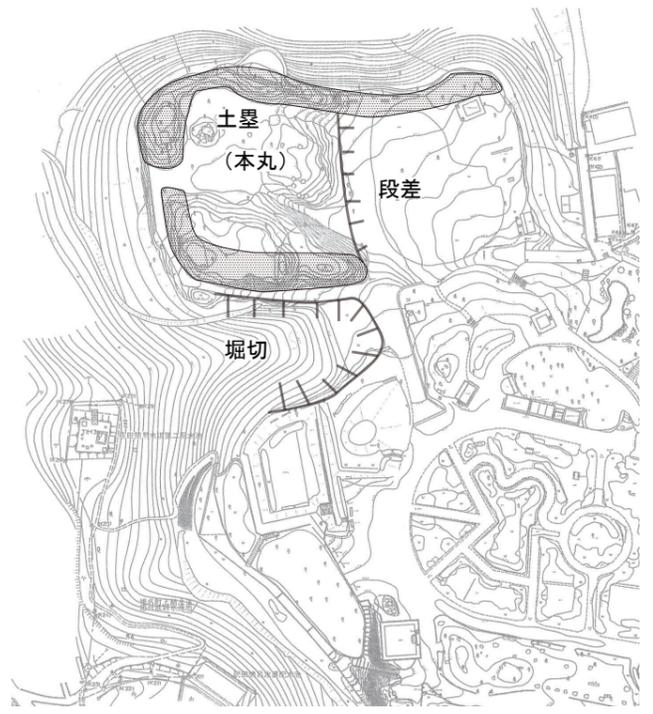
- 調査と整備事業の内容と成果は、常に市民に公開する。
- 整備事業の推進は、常に地元の研究者を始めとする地域の人々であるべき。
 - 外部からの招聘は一部の専門家に限る。



正保城絵図 上野国沼田城絵図 (部分)

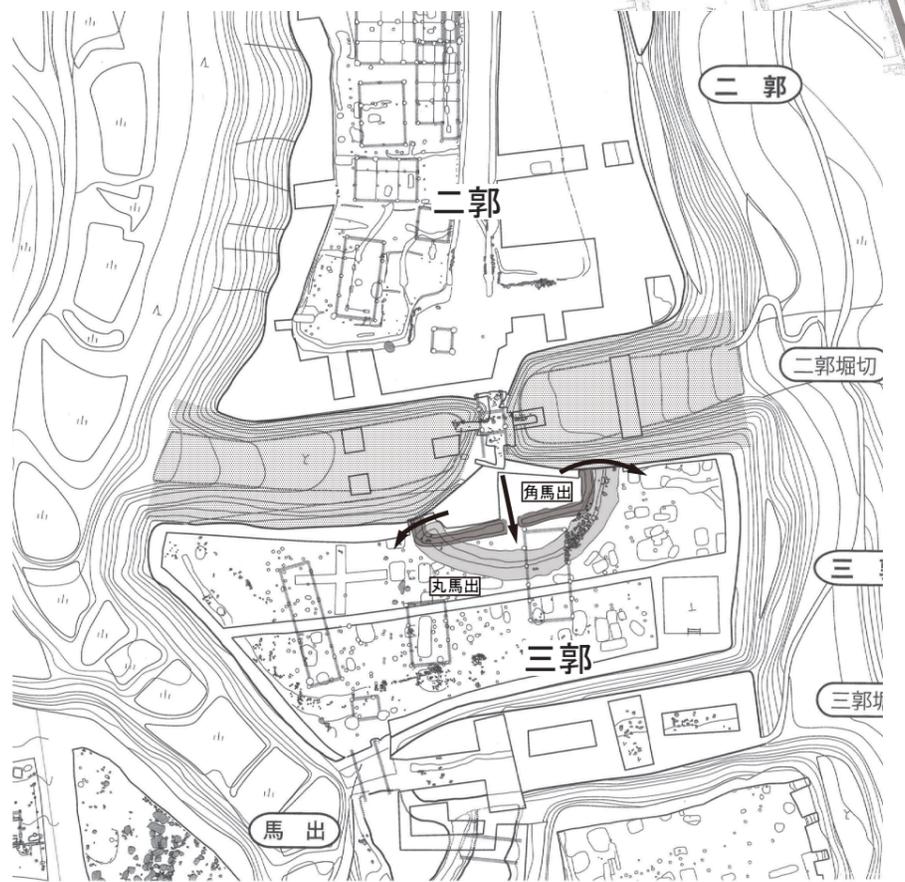
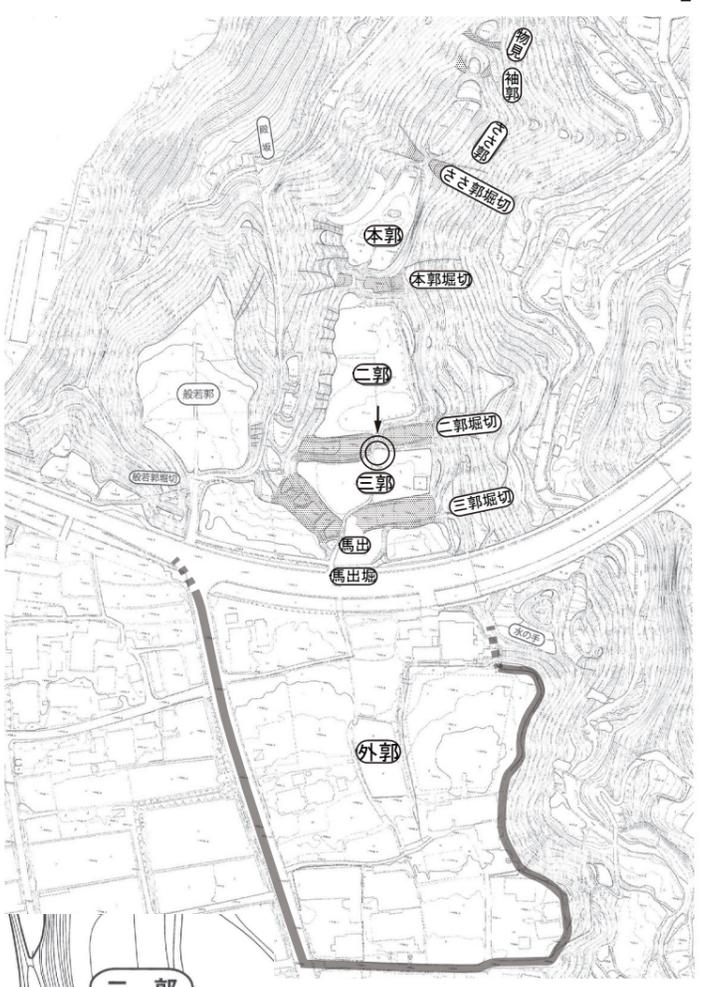


倉内城イメージ図 諸田義行氏 作成



沼田城「古城」の測量所見

名胡桃城 縄張図



名胡桃城 二郭 馬出部